



住職挨拶

今年も早いものでお盆の時期となりました。一昨年より進めてまいりました各事業ですが、昨春からの会館庫裡改築工事の完成をもちまして全て終える事が出来ました。これも檀信徒皆様のご理解、ご尽力の賜物と感謝申し上げます。また十月七日・八日の大法要も近づいてまいりましたが、追ってご案内送らせて頂きます。

この留辺薬も六十五才以上の方が約四十五%という統計数字が出てきましたが、これは日本全体の少子高齢化の問題でもありますから、自分たちだけと嘆く訳にもいきません。しかし数字以上に家族・地域の繋がりが弱まって、家単位での孤立化というのは顕著になってきています。その中で「傾聴」という言葉が注目されてきたように、悩みに答えて返すことよりも、ただ近くで聞いて共感して欲しい、寄り添う心というものがこれから大切になってくるんだろうと思います。

これからの時代、自分を受け入れてくれる、認めてくれる存在ほどこ、心の支えになるものは無いのかもしれない。私達は気付いてないだけで誰かに支えられ、そして誰かを支えているはずで。たった一度の人生を自分一人の為に使うのはもったいない。そう思いたいものであります。

合掌



晋山結制の様子（平成二十一年・当山にて）

お寺の動き

庫裡会館改築工事完成

平成二十八年四月より始めておりました庫裡会館改築工事が約十ヶ月の工期を経て、無事に完成致しました。大広間では百人程が参詣可能で、備え付けの祭壇を用意しており法事や葬儀の受け入れも以前より出来るものと考えております。更に駐車場増設、境内整備等によって、檀信徒皆様のお参りがより快適に出来るものと思えます。



新しくなった庫裡・会館

境内整備・会館庫裡改築 寄付金進捗状況

記帳額 (382 人記帳)
9,453 万円

納入額
8,720 万円

平成 29 年 7 月 1 日現在

平成二十九年度役員・世話人

住職	米田憲人	世話人	安藤祐太郎(上町)
総代	戸田健司(大富)	世話人	佐川和則(旭南)
世話人	小熊正三(旭中央)	世話人	渋谷恒彦(秋田)
全	佐々木勝太郎(豊金)	全	工藤良二(宮下)
全	木幡和清(旭中央)	全(監査)	荒木正憲(旭一区)
全	吉村義正(北見市)	全(監査)	尾関昭夫(北見市)
全	井上勝昭(旭三区)		

大雄寺行事予定

- 8 月 16 日 孟蘭盆施食会
新亡施食会 午前 11 時より
一般施食会 午前 11 時半より
- 9 月 23 日 秋彼岸会 午後 1 時より
- 10 月 7 日 四世晋山結制・三世三回忌
- 8 日 庫裡会館落慶大法要
- 10 月 17 日 成道会 正午 12 時より
- 今年度に限り中止
- 3 月 21 日 春彼岸会 午後 1 時より
- 又は 20 日

仏事

Q & A

知ってるつもりでも、わからないことが多い仏教用語・作法もあるようです。そこでQ&Aのコーナーを設けました。

Q この度行われる十月七日、八日の法要というのは、どんなお参りなんでしょうか？

A 今度の法要は大きく三つに分けてのお参りとなっています。一つ目が現住職の晋山結制法要（襲名披露）、二つ目が先代の三回忌法要、三つ目が庫裡会館落慶法要です。この中で主となるお参りは晋山結制法要で、住職がお寺に入るための儀式です。「晋」とは進むの意味で、「山」とはお寺のことです。住職はその式の中で、本堂や諸堂の仏さまに報恩感謝のまことをささげます。

またその式は修行僧を集め、結制修行をして自らの法の教えを宣揚する場でもあります。お寺にとっても檀信徒皆様にとっても一世一代の機会でもありますので、たくさんの方のお手伝い、お参りお願い申し上げます。

Q それではそのお参りの時の服装や、お布施等は決まっているのですか？

A 服装は特には決まっています。正確に言えば襲名披露や落慶法要はお祝いのお参り、先代の三回忌は法事のお参りとなります。その都度、着替えるのも難しいので、どちらにも参列出来そうな落ち着いた服装であれば構いません。またお布施等もお祝いと香典に分けても構いませんし、お布施として一つにまとめても構いません。金額等も決まっていますが、大法要を営むには皆様の喜捨が不可欠でございますのでよろしくお参り申し上げます。

心のたすき

「妻と息子に」

旭一区 北林 勇



初夏の季節となりました。今年一月に妻の三回忌法要を無事に済ませました。息子を若くして亡くし、その寂しさから犬を飼い、永年、妻と一緒に供養をしてきました。しかし、その妻を一昨年に亡くしましたが、二人の居ない寂しさ、悲しさにも少しづつ慣れてきたところです。

妻は何かを始めると手を抜くことが出来ない性格でした。朝のお参りには般若心経を必ずお唱えするのが日課で、その他にも庭の花の手入れ、料理、孫の世話、趣味の木工等、ほとんど妻の務めとなっていました。私が見てもとても上手なものでした。

そんな何気ない日常を送っていた中、妻が六十歳の誕生日を迎えた頃に大腸がんが見つかり、癌との闘いの日々が始まりました。抗がん剤の副作用、体の冷え、寒さとの闘い、その中で体力も弱ってきてケガをする事も多く、二重の闘いでもありました。けれども弱音を吐くこと無く、孫の成長を一番の楽しみにして、最後まで一日一日懸命に生きておられます。

支えてくれた家族や親戚の方々には感謝しています。今は毎朝、息子と妻に手を合わせています。これからは妻の残した花の手入れをするのが私の仕事と思ひ、頑張っていると思います。

お稚児さん募集しています

十月七日、八日の大法要にて住職が大雄寺まで行列を組んで行進する際、それを華やかに彩るお稚児さんを募集しています。衣装・写真撮影はお寺で用意しますので、宗派・年齢性別問わずのたくさんの参加をお待ちしております。日程等、詳しくはお寺まで。



稚児行列の様子

編集後記

▼ 今事業を通し特に感じたのは、歴代住職と檀信徒皆様のご先祖との繋がりの強さでありました。自分はその積み重ねてきたモノを形にしただけに過ぎない。そんな気持ちであります。今度は自分が将来の為に何を残せるか、一つ一つ焦らず、だけでも着実に。

住職